

私のおうち劇場その4 配信されたオペラ「イドメネオ」

川口 ひろ子

2021年7月、ミュンヘン・オペラ・フェスティヴァルで上演されたモーツアルトの「イドメネオ」は、翌8月にオンラインによって全世界に無料配信され、早速視聴した。

ミュンヘン皇帝の命により25歳のモーツアルによって作曲されたこのオペラはギリシャ神話を基にしている。戦いに勝ったクレタの王イドメネオは洋上で嵐に合う。荒天を鎮めてくれれば生贄を捧げると海神に約束して無事帰国するが、生贄は何と息子イダマンテであった。様々な打開策は全て失敗、国内は荒れ民衆は生贄の実行を迫る。遂に息子はこれを受け入れ、刀が振り下ろされようとした瞬間、密かにイダマンテを慕っていた敗戦国の王女イリアが「私を身代わりに」と割って入る。その時「愛が勝った」との声が響き、イダマンテは新王にイリアはお妃となる。一方納まらないのが恋敵のエレットラだ。絶望のあまり狂人となって退場。こうしてクレタに平穏が戻り、Tシャツ姿のイドメネオは一人缶ビールを手に舞台に残る。滞りなく世代交代が進んだことを喜んでいるのであろう。

一番の収穫は、時代を現代に設定したシンプルな舞台美術だ。いちめん灰色の舞台は広い海原のイメージだろうか。そこに巨大な岩の張りぼてと五十本程の角材で作られた難破船を思わせるオブジェが置かれている。

バイエルン国立管弦楽団の活気あふれる古楽風のオーケストラが秀逸。ごく早いテンポ、元気の良い打楽器、弦の響きは限りなく美しい。トレンドを巧みに取り入れて今と言う時代を明快に表現している。

残念なのは歌唱面と演出だ。女声の古楽風の頼りない声は説得力がなく魅力に欠ける。そして過激な演出、露骨でくどい表現の連続にはうんざりさせられた。

以上、勝手な感想であるが、このオペラの初演の地・ミュンヘンの奏者の皆さんが、伝統に安住せず果敢に未来に挑戦している姿に感動させられた。

コロナ禍で外出も儘ならない昨今、「おうち劇場」で稔り豊かな夏を満喫した。